東京片貝会報

発行所
東京片貝会
中央都日本橋江戸橋1～9
化学工業技術同友会内
電話（271）1922

耐油底・耐熱底・絶縁底
安全長靴・安全地下タビ
…製造元…
不二化学工業所
東京都墨田区寺島五ノ八〇
電話（611）0158・0159・0160

第四回東京片貝会懇談会ご案内

昭和三十八年度の在京（隣接県を含む）片貝出身者の融和をはかる年次懇親の大会を左記の通り開催致します。

年一回の会合でありますので、ご多忙中恐れ入りますが万障くりあわせ親友知己のお方などご連絡勧誘賜わり多数ご参席下さるようお願い申し上げます。

記

一、日　時　昭和三十八年五月十九日（日曜）午前十一時（時間厳守のこと）
一、会　場　目黒駅前「みやこ温泉」三階広場（受付で片貝会と言って下さい）
一、道　順　国電目黒駅下車約三分、権の助坂右側小路入る（丸美百貨店向い）
一、会　費　八百円也　折詰、酒、飲料、菓子・うち一〇〇円は機関紙、連絡費とする。中・小学生は（五百円）酒なし、幼児は無料、入浴随意（洗具持参のこと）

一、行　事　第次
開会、挨拶、事業会計報告、来賓所感
余興（会員の余技披露、踊り、民謡など申込がたくさんありますから返信用はがきか当日係員にあらかじめ申出て下さい、終りに盆踊など致します）

一、出、欠席のご返事は同封のはがきで五月十六日まで当方に届くようお願い致します。
（間に合わぬ時は電話でも結構です）

⊙なお都合悪く時刻におそくなる方は、そのむね参加申込はがきか、または電話であらかじめ会場受付へご通知下さい。受付は朝九時半から開いています。

⊙お願い―毎回のことですが同封はがきで返信のこないお方が半数以上あります。お互様のことですから、出欠のいかんにかかわらず必ず返信はぜひご投函下さい。

⊙本記事をもって、懇親会ご通知にかえさせていただきます。

昭和三十八年五月一日

東京都都中央区日本橋江戸橋一の九
化学工業技術同友会内
東京片貝会
電話（二七一）一九二二番

発刊のことば

東京片貝会の第一回懇親大会が開催されたのは、さる昭和三十九年の陽春五月、国電渋谷駅に近い渋谷温泉であった。それから振二回、第三回と毎月黒みさご温泉で開催して来た。

しかし実際に東京片貝会の生れたのは故松井吉氏の努力によって「在京片貝出身者名簿」が前年の秋に刊行されたことにはじまる。そしてこの「記念出版会」が奥瀬ケ原の青空宴で、有志たちによって主催されたが、そのおりの参加者は二千数名あったかと記憶している。

そこで各自がその旧懐の情を吐露しながら、今日の東京片貝会の創立を盟約したのであった。

あれから数えて五年になるわけだ。以上のように年一回の片貝懇親総会は持続されて来たものの、別記のように世話役の松井さんに近去されてみると、いまさらながら同氏の苦労の並ならぬものがあったことが痛感されるのである。

生きた恰好な連絡りを失ってしまったので、各地区に散在する会員間の連絡をはかるにはどうしたらよいか、結局は年に一回だけ機関紙でも発行して、お互い同三年目の危機とかいわれるが、ちょうどいまの盛衰の分かれ目に仕掛はないことになった。

さてこれはこの機関紙をどうするかということになると自惚ってしまう。ますどういう内容を盛ったらよいか、それに資料も豊富もとしく、各自の協力熱勢も都合のまま、期日もせまり、不本意ながらみうる通りお粗末な第一号を発行することになった。ご寛容をもう次第である。

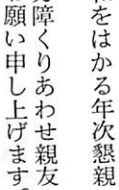
どんな事でも現実維持では、しだいに興趣も張りも減退し、衰縮してしまう。三号雑誌とか創業と称っている。

若い新人たちは、楽しかった昭和十一月十日、小十谷高校（旧小十谷中学・第五回生）の創立六十五周年記念式に参列し、過労の同地で発病、その後、自宅で療養中であったが、喜寿はなはだしく付近の武蔵野病院に移ったが入院間もなく逝去された。

二十日の通夜には石上直治、同息子、吉原三郎さんが参席、翌二十一日の告別式は恵ケ原の自宅で午後一時から近親の人びとによりの営まれたが、芝桂七、丸山又太郎、安達福作さんたちが参列し東京片貝会から生花を仏前に供へた寒いみぞれ雨のそぼ降る晩秋のなぞがれ感は火葬場におくられだびにふされた。

松井卯吉さんの生家は、三ノ丁組に基物店、片貝小学校から小千谷中学を経て、陸軍士官学校を卒業、浜松連隊歩兵を振り出しに、軍隊各地を転任、川越中学の配属将校となる。退官後昭和九年満州国軍に入り連隊長となったが、終戦となりソ連に抑留され二十三年帰還、上京し数年間から国分寺恋ケ窪に新居をさだめ業務のかたわら東京片貝会の発展に献身されたが、つねに温顔をもって接し、明るいムードをうみ出す寡笑な人柄であった。行年七十一歳

東京片貝会の生みの親
松井卯吉氏逝く
昨秋十一月二十日老衰で



東京片貝会の産婆役として創立の基礎をかため、名簿の作製やら数次の総会に世話人として奔走された松井卯吉さんが、昨秋十二月二十日老衰で逝去された。

清純な若芽をはぐめ

最近「人づくり」がひとつの流行ムードとなっている。筆者の寡聞が知らぬが、東京片貝からは一人材があまり出ていないといわれる。例えばわが第十社の生みの親、石黒忠意（ただのり）子爵、東京歯科医学専門学校（東京医科歯科大学）の初代校長の島峰徹博士などが挙げられるがしかし、これらの人は他所から移入した者であるか、それは風土か、気風であるか、長い戦前の歴史を顧みるに極めて封建的な色彩なり因襲が濃かった。会持ち、義理人の間に、いつか劣等感をもった人間的な萌芽性が形成されていたようである。それがたとえ善事であっても上が好まなければ遠慮し、悪事であっても四囲の空気によって追従する言った。日和見主義的な卑屈な根性が、知らぬうちに培われたのではなかろうか、このことが人間不形型にし、小利口にしたわけだ。人材育英賞が低く、目前のソロバンだけに拘泥し、また二部には養育的特権が過大視されるきらいがあった。したがって小学義務教育を終わると一般の婦女子、次男三男坊たちは女工哀史や結酬物語を地で行く苦難な行路を歩まねばならなかった。こうした環境のなかでは、どれだけ「人づくり」の問題を論じても無駄話というものだ。いま東京で今日の地位にある者の多くは、文字通り赤手で、汗と油にまみれ悪々と努力を積みかさね一来た人びとである。

ある時は失望、また国難して郷土の為暴しだことも幾度かあったであろう。

人生にとって最も大切である人間形成の時期、すなわち青少年時代をいかに意義深く薫陶するか会員の諸兄姉にこの見地から重京片貝会の使命を考えてみたい。これからあとに続く興郷にある若者たちは、まず卑屈感を捨てることと、公共と胸をはり強く生き給え！明るく伸びやかに、この清純の若芽が育たったのに、惜しみなく郷土愛の手を差し述べようではないか。十年、二十年より将来の人づくり成果を期待したい。

（越岡生）

趣味を語る
旅行会の企画
今秋ごろ奥湯河原へ

東京片貝会も昨今は会員数もしだいに増加し、年一回の総会のほか、出来れば今秋ごろ奥湯ケ原の青葉荘（八島出身故高知尼使次郎氏の創建）で有志会員を集り一夕懇談を語る懇親旅行の会開催致しやいとの希望意見が事務局あて提出されている。

会員と言っても年齢層の相違は多少あるが、民謡、踊り、写真、囲碁など各人、各様の趣味がありもとより、電話番号などは拾遺するし故郷をみているので、近ぐ一度は汲みながら浅酌低唱して、ほどよく親睦の実をあげるのが目的である。

おって本会事務局でもその企画案をまとめ有志間に勧誘状を発送する予定であるが、希望者は総会の際でも差支へないから幹部の関係者に日時、会費の要件を申込名簿に追記した。

会員名簿の改訂
住所変更調査
再刊意見をきく

東京片貝会の在京者名簿は昭和三十四年秋の刊行となり、故松井卯吉氏の編纂寄を原としている。

その後の住所や勤務先の変更は拾遺されままで、電話番号などは拾遺するし故郷をみているので、近ぐ一度は汲みながら浅酌低唱して、ほどよく親睦の実をあげるのが目的である。

この名簿の記載者数は約七百名にのぼっている。

たゞ同一世帯のものは一個人整理の上、再刊の希望も出ているが、今回は住居紙上調査の趣旨で会員に機関紙を発送することとした。

たゞ同一世帯のものは一個人名簿に追記した。

卸　皮革一般　靴材料

株式会社　堀井商店

東京都台東区浅草今戸3丁目6番地
電話（873）1156・1157番

有志幹部会で 総会方針を協議

二月はじめ韻松亭で

節がけのようなる寒気が知らせかけた。二月八日午後一時、上野公園韻松亭で東京片貝会有志幹部会を開催した。

午後二時一同着席し、世話人として後藤佐平治氏が次のあいさつを行ない司会役をつとめる。

まず多忙中出席された参会者に感謝の言葉をのべ、本日の議題である片貝会今後の運営について協議に入る。

昨年度の経過報告として昨秋十二月二十日急逝された松井卯吉氏に対する弔慰問状発送などを含めて会計報告をなし、一同これを了承。それより本日の出席者を世話役人に推すことを提案し一同これを可決。なお青年部世話役に本田竹次氏を推し、同氏の快諾を得た。

さらに具体事項を各担当委員の選出には、芝、丸山、安達の三氏を委員会委員として一任することにした。

当日の協議決定事項はつぎの通り

一、本年の東京片貝会総会は日黒会と温泉を場とすること。

一、会費は昨年通り七〇〇円、ほかに機関紙発行および運営費として二〇〇円、計八〇〇円を徴収すること（会不参加の場合は一〇〇円だけ）。

また会後に会踊りをすることとなどとし、のち酒杯をあげ懇談をかさね五時散会した。

出席者

芝桂七、石上直治、丸山貴司、吉原三郎、安達三郎、本田竹次、安達浦郎、浦部シゲ、高桑英治、大矢良平、横山松代、藤塚太郎、谷田忠郎、山口慶吉

写真説明　左から安達浦郎、石上直治、芝桂七、山口慶治、吉原三郎、松井卯吉、丸山貴司、浦部シゲ、福井カツ、横山マツヨ、安達龍作の諸氏（昭和三十七年一月上野公園「韻松亭」で撮影）

会報発刊のお祝

佐藤佐平治

会報発刊の慶を承わりまことにうれしく、心から祝詞申し上げます。年一回の会合だに賠り合い、郷里の事情をお話する事は私の喜びであり指導の陰ながら幹部の御苦労を頂く時の喜びは、何にものにも変えられないひとときであります。このたび会報創発刊のことを承わり、これはたいへん革業であり、費用もかさむ事と拝察しておるのであります。会費を通じ、各担当委員の方々は分担すれば、何んでもない事と思われますので、各自がもりたて、立派な会報が出来ますよう、こころから念願してやみません。

（元村長）

会の運営に 各部の委員決る

さる二月八日開かれた東京片貝会委員懇談会で、各部担当委員の選出を委嘱された芝、丸山、安達の三氏は、その後協議の上、一応任期三ヵ年として、つぎの各氏にそれぞれ委嘱方の通知を発送した。

総務部　芝桂七、山口慶吉、丸山又太郎、安達龍作　会計部　安達浦郎、石上直治、吉原三郎　編集部　藤塚太郎、高桑英治、谷田忠郎、安達三郎、安達龍作（兼編集部）　浦部シゲ、福井カツ、横山代、青少年部　本田竹次

東京片貝会々則（案）

第一条　本会は東京片貝会と称す

第二条　本会は事務所を東京都におく

第三条　隣接県に住所をおく、小千谷市片貝町出身者を会員として組織する

第四条　本会は会員の親睦、融和をはかる目的として左の事業を行う

一、懇親会の開催

二、機関紙の発行

三、その他必要とする事業

第五条　本会はその運営をはかるため左の役員をおく　会長一名　理事若干名

第六条　理事は総会においてこれを選出し、会長は理事会においてこれを互選する

第七条　本会に顧問として相談役をおくことが出来る

第八条　会長は理事を兼任し、理事は左の役職を執行する。総務部、会計部、機関紙部、婦人部、青少年部

第九条　本会の総会は毎年五月に開催する

第十条　役員の任期は二ヵ年とする。但し再選を妨げず

第二条　本会の維持は会費および寄付金をもってこれに充てる

第三条　本会の会費は年一〇〇円とする

第四条　本会の会計年度は毎年五月として総会においてこれに報告する

第五条　本会はその運営に当り必要を認めたる場合は、随時、理事会を開き協議決定を行う

寄付金として浦部二（〇〇〇）、福井（三、〇〇〇）、横山（二、〇〇〇）、大矢（一、〇〇〇）計七、〇〇〇があった。

第三回東京片貝総会 郷土気分を満喫す

盆踊り木遣りなど

▽…第三回東京片貝会は昨年五月十三日、日黒みやこ温泉で開催された。この郷土温泉は、絶好の好天気、午前十時ごろ雨を迎えて会場に集まられた三百余名の顔ぶれは、一年ぶりの顔合せで大入の盛況であった。

午後一時東京三郎氏の司会の下に開会式。

会長一名　理事若干名

第十条　本会の維持は会費および寄付金をもってこれに充てる

第三条　本会の会費は年一〇〇円とする

第四条　本会の会計年度は毎年五月として総会においてこれに報告する

第五条　本会はその運営に当り必要を認めたる場合は、随時、理事会を開き協議決定を行う

▽…第三回東京片貝会は昨年五月十三日、日黒みやこ温泉で開催された。この郷土温泉は、絶好の好天気、午前十時ごろ雨を迎えて会場に集まられた三百余名の顔ぶれは、一年ぶりの顔合せで大入の盛況であった。

午後一時東京三郎氏の司会の下に開会式。

会長一名　理事若干名

第十条　本会の維持は会費および寄付金をもってこれに充てる

第三条　本会の会費は年一〇〇円とする

第四条　本会の会計年度は毎年五月として総会においてこれに報告する

第五条　本会はその運営に当り必要を認めたる場合は、随時、理事会を開き協議決定を行う

ふるさとだより

本通りがアスファルトに

今年から三年計画

境川の改修工事完成す

片貝の中央を貫流している境川は年々風、集中豪雨などにより川底や沿岸が荒廃し洪水禍のおそれがあり、この上流地域である樽屋沢に砂防ダムを築造中であったが、昨秋その完成をみた。

天然ガスを家庭用に

片貝の裏山（塚山道）地帯でかねて天然ガスが湧出し、この一部は町の主産業である米菓製造の燃焼用に利用されていたが、何分地元のことであるので広く一般家庭用に普及することにきまり、配管工事費の積立を行いつつあったが、融雪をまっていよいよ着工、年内に竣工の予定である。

これによって農村の主婦たちは薪とりの労苦から解放され文化生活の第一歩を踏み出すことになろう。

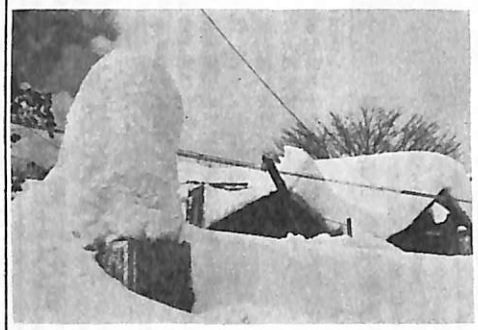
× × ×

片貝の道路が上は清水橋（やまんば）から下は八島まで改良工事が三十八年から三ヵ年計画で行われることになりました。現在の道路は五尺五〇のせまいものですが、今度小千谷土木出張所の計画では、有効幅員六尺五〇、それに両側に流雪溝を作り約七尺五〇位とし、アスファルト舗装とするものです。

三十九年度は八百万至二千万円の予算で測量、土地・家屋の補償等ですが、全部出来上るには七、八千万乃至一億円はかかることでしょう。大部分は県費ですが一部市費と負人負担もかかります。町中皆さまこんで受入れ体制になっていますが、いざ工事が始まれば又何んとか苦情も出るかも知れませんが、町に道路改良期成会という団体が出来まして私が御世話する事になっていますので、いろいろとまた仕事が出る事と覚悟しております。

本年の豪雪はすでにご承知の事と思いますが、豪雪の難儀を乗越えば、モットモット道を広くして貰いたいなどという声もあります。

（佐藤医平治氏よりの報告）



＝写真説明＝

昭和38年の豪雪

①、映画館からの佐藤ケヤキ（引込電話線のやさぐって）

②、自衛隊の機械力（表二の下通り）ブルトーザー、ショベルカー、ダンプカーなどで道路の雪を田舎の上に運んで道路は幅員が広くなり、高さは一・五〜二位下がる）

③、佐藤石門の上の雪（一月二十三日より豪雪始まる、上越線より路線は一〇〇時間余りかかって漸く東京へ入る）

④、二の丁小川医院の入口（小川医院の最大の雪害は患者が来られなかった事だった由）

⑤、表三の丁より南を佐藤のケヤキが見える（この大雪の陰に隠れる住宅がある）

会員移動簿

○印は新会員

高橋　かつ（二の丁浄照寺　旧姓小林）
千葉県船橋市常盤平団地五十五ノ四〇五

本田常五郎（二の丁イナバ）
千葉県習志野市大久保町一ノ五〇五　公団住宅三〇一二〇四

山崎　きい（四の丁　旧姓五十嵐）
世田谷区千歳船橋四〇

湯島　茂雄（三の丁医院別棟）
横浜市中区本牧三の谷一四ノ八

霜沢（一〇）二七六六

桜井　平助（二の丁）
札幌市北二千条東五丁目

大矢　修一（二の丁）
神奈川県高座郡海老名町国分一二〇四

他山の石

米屋の羊羹

私はある所で人小間会の母高道徳（モラルジン）の話を聞いた時、その一挿話に非常に感銘を受けたので、低上を借りて感話を拝様に御紹介します。多少でも御参考になれば幸いです。

今や米屋の羊羹は成田山のみでなく、全国至る所で販売せられ、その品質と量に比べて安価で大衆向なる点は余りにも有名である所、かつては経営難に陥入り彼等の一歩手前まで追詰められたおりに、最高道徳の先覚者広池博士に相談したところ、当時「十銭の羊羹を五銭で売りなさい」と申されたる由。これを聞いて米屋の主人は大いに驚き「十銭でも赤字で困るのに、五銭で売れとは何故でしょう」と反問したのに対し「十銭の物を品質と量を落さず五銭で売れば、最初は赤字が嵩むけれども、段々売れ行きにつれて赤字も減り、やがては量産の域に達すると共に、黒字に移行するは必定なり」と。

そこで米屋の主人はこの教えを信奉化し、凡ゆる困難を克服して

ことられたので、今日の隆盛を見られたものであるという。

私は根っからの商人でなく販売のことは良く判らないけれども、何事もこのコツではないか深く感銘した次第です。（町浦出身、大正五年高三系・安達清郎）

（二面より）「会員」動静

太刀川富士太郎さん（寺町出身　七五才）

片貝から東京に新天地を求めて上京したのは戦前、荒川区日暮里に居を卜し、建築用資材の製作に専念してきたが、戦後は建築ブームにのって一家をあげて絶活動である。業もものかは若々人間味ゆたかなとのこと。

高野浅五郎さん（山鳥出身　五三才）

建築不燃化時代に入り、コンクリートブロック建築やブロック塀屋根スレート瓦、プレス瓦の製造とこの施工を営み業績中。朝日建材工業株式会社を創立して社長として健闘している。スレート工場は花原にブロック工場は山崎市小倉町にある。

会報発行に寄せて

浄照寺住職　小林文雄

前浄照寺小林一道住職の亡くなった年も、今年のような酷い雪でした。五月の声を聞えても、まだ雪がありました。その頃、少年会に来られた方々は皆なり派な青年、主婦になっておられる事と思います。

ます。

東京に行かれてから、どんな話さんが苦労された事でしょう。人生には健康と努力と信用が第一に大切かと思われます。若い方々よ、郷土の名誉のためにしっかりや賞こ頑張申上げます。

東京に行かれてから、どんな話さんが苦労された事でしょう。人生には健康と努力と信用が第一に大切かと思われます。若い方々よ、郷土の名誉のためにしっかりや賞こ頑張申上げます。

歳をとると故郷の事が思われますが、私の抱いている夢に、片貝出身の皆さんが、老後一緒に集まって気楽に話しあう片貝倉庫のようなものが東京に出来たらどんなに楽しいかと思います。そして新しく社会に出る青少年を南助指導して頂けたら、郷里の父母も安心しておられる思い

上京して、先輩の方々の処にお伺いしておりますが、東京の素晴しい発展と共にその方の今日までの努力が並大抵なかった帰に感激しております。

って下さい。私も毎年お盆に

皮革、札入、蟇口、定期入
製造販売
袋物製造卸
有限会社　五十嵐商店
代表者　五十嵐松治
東京都江戸川区平井4〜1243
電話（611）7971

奥湯河原温泉場
バス停留所前
広井商店
趣味の御土産品
食料品店
電話　湯河原　二四七四

とんかつ
円山
東京都中央区銀座西六の四
（阪急デパート裏数寄屋通り）
電話　東京（571）3085

青山白夢

自他一体の営み

藤塚太郎

「自他は一体である」このことは、自分も他の人々もそれぞれ別個の存在のように見えているが、畢竟するに一つのいのちのあらわれであるとの意味であります。

何人にもそれぞれ感動を与えずにはおかぬでしょう。

説明は、この程度で止めますが、こうみてきますと、私共を生かし支配する一つのものの存在が考えられます。これを、いのち（大生命、大自然力）として受取ることができましょう。このいのちが働いているために、私共は無意識のうちに絶えず呼吸し、心臓も鼓動を続けており、疲れたあのすから眠りに入ることになっています。

自他のかたちはそれぞれ異っており、同じものは一つもないのですが、肉眼に見えぬ一つのいのちの働いている現象的あらわれが個々人のすがた形、行動であることになります。現象的には多ですがたをとっていますが、絶対的に一つのいのちの別なに新たなる創造的、芸術的活動をここに営まれているのであります。

自他一体の境地、他人の幸せが自分の幸せであると感じられ、己を愛する如く、隣人を愛しうるみが、古今東西を通ずる聖人（達人）教祖の信仰した境地であり、また諸宗、諸教の興隆に通ずるものであることを会得できるのであります。

自他一体の真理を把め、これが実践に努められると、健康はもとよりこの世のあらゆるよきもの、美はしきもの、好ましきものが実現することになるのであります。

人も、物も、金も、必要に応じお寄を通ずる供出し会宿作品はのすから集ってくることになるのであります。

私共の呼吸する空気は流動して止まません。一つのものとして捉え表面を殺っていることが判ります。空気と共に私共の存在は不可欠の水も、東京湾の水はロンドンの水に通じており、水はまた水蒸気となって昇じ雲となり、捉え表面を流動して止まず、液体、気体、固体氷雪を通じて水は一つのものとなることができます。

エネルギーの根源である太陽も一つであって、常に恒長にただ光線として万人に生きとし生ける一切のもの）を生かしています。

絵画、彫刻、音楽その他、古今東西を通ずる供出し会宿作品はのすから集ってくることになるのであります。

ふるさとの山に向ひて
言ふことなし
ふるさとの山はありがたきかな
（原文のまま）
石川啄木

故郷を想ふ

安達市郎

人は誰でも遠く離れて故里を思わぬ者はない。生れて育成の間、一木一草に思るまで、もろもろの風物が脳裏に焼き付いて、また祖先伝来の郷土の地であるからでもあろう。私は志を抱いて片貝を出て五十年間、嬉しいにつけ、悲しみにつけ一日でも片貝の何物かをおもわぬ日はなかった。この長いあるを共に、魚の遺志を継がれる片貝青年団長、芝垣七、丸山貫司山口厚吉の諸兄、その他幹事諸兄の御健闘と東京片貝会の発展を願ん変り方であろうけれども、昔の面影が偲われてならないのは私一人ではないでしょう。この意味で東京片貝会が創立されて四年目、来年片貝も、村から町へ、更に市へ発展し、何から何まで大変な御健闘と東京片貝会の発展を願ん止まない次第である。

（町浦出身・大正五年酉三卒）

懐しい回想

高橋かづ

有為転変。

今まではお盆のあやである位におもっていたのが、自分自身のことになろうとは。

三十有余年自分の理想通り農家に嫁し、理想に充ち石もありましたが、一昨年末子が大学卒業すると自血病にて、翌年三月死亡、そのショックで自宅闘病だった主人も、翌月死亡いたしましたため、今更がん張る勇気もなく、長男の許へ来て国地生活です。

もう理想も空想も何もありません。しかし私には美しいおもい出があります。ふるさとの山、川、皆その一つです。

五月ともなれば焼きつくような油蝉のジージー、その下で育まれて来た私たちは、せみしぐれをあびながら川で浜蟹取りに余念ないひとときをすごしたこともあるおもっていたのが、皆様にくたのこしいおもい出です。

ここのふる里で、貴重な空気抱いて育った青春は、各々故郷の光明を求めさして送迎されたことでしょう。その間幾多の風雪雷雨の日を耐えしのがれたことおもいます。

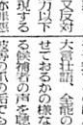
ふる里を共にする同志は互いに手を取り合ってのしく進もうではありませんか。そして先人の、もうたられた郷土の文化を、もうに一度しみじみと顧みようではありませんか。

（二ノ丁・静岡県浜安・旧姓小林・六才）

引込思案を排す

谷内忠太郎

去る二月八日の東京片貝会に出席して、久方振りに郷里の皆さんにおあいすることが出来ました。全く思いがけなく嬉心に浸り、思ったよりも多くの人々が東京の方に出ておられて、それぞれ



各方面に活躍されておられるので、人でも、矢張り大衆の中の勝利者となるのであります。

そうしても必ずしも支配者的立場に立たなければ成功者とは言い得ないと思います。

そのなかには前にもの述べた古口厚吉氏の様に、堂々と自分を第三者に認識させ信頼を得る様な調整を必要とします。ですから機会ある毎に集会等に顔を出して、他人の意見を直に表現する様心掛けたいものです。

表現するのは誠意あり、及対人に能力以下の表現をすることは、よいとして、実に大会社間、金能の魔力でも持ち合せておるかの様な政治をふちまくる傾向者の声を聞く度に、せめて近頃の人絹選挙等で自己の抱負を発表するのはよいとして、実に意志を発揮し得ないというのも後の、自分の責任であると言われているが、自分の表現の低く表現する弱点と同じことに表現するのも然思ってはならぬと思わされる場合が実者の低く表現する弱点と同じことなるのです。そんなわけで、なぜ、自分というものがありのままに誠実に真っ直な様な線を描き、明くことが、何よりも肝要なことと思います。

こういうことは、郷里人士の厳や小い伝統の然らしめた結果であって一朝にして立ち直る事ではないにしても、新しい世代の魂場神に打ち勝って行く為めにはどうしても必ずして行かなければならぬ重要な事柄と思います。個人的には実に優れた立派な人物であるが、しかもその努力なるや到他の人々と比べて何等ならない劣の人々に比べて何等ならない劣の

住所の移動は必ずご連絡を乞う

会員の住所および勤務先変更のおりは必ず事務所までお知らせ下さい。また知りたい会員の住所は往復はがきで事務局までお問合せ下さればお通知致します。お互同志のため是非ともご励行願います。

なお親友知己でまだ入会されていない方がありましたら、勧誘してお知らせ下さい

東京片貝会事務局
東京都中央区江戸橋一の九
化学工業技術同友会内
電話（271）一九二一番

高知尾さんと青巒荘

風雪に鍊えた徳望家

故高知尾儀次郎氏は片貝人島の一人で生れ、一旦帰京されたが、十六歳の時、一人帰京されたが、間もなく再度上京し実業界に入る日本橋横町にショール、洋傘商を営み、刻苦さく健闘して再、製造商として成功された。氣象敏広く、風格者として声望があった戦前に、後記の碑文にある通り時人跡まれな奥鬼怒原の開拓に手を染められたが、戦後は日本橋店で同所で大帰の途たられた。現在は甥子家族の嗣が経営されている。

広井三次（旧姓武蔵）同社創業のころから、すでに三十数年勤務されており、従業員間に信任が厚い。（写真は青巒荘内に建立された顕彰碑）

碑文

魚は明治九年六月六日新潟県三島郡片貝村大字人島に生れた。大正三年温泉掘鑿の役広河原開発に志し、町長高橋力と協力し護を開墾ならの昭和二年に完成した。ことに私費を投じて貯工事を起し逐に現在の如き開発なる温泉郷広河原開発の基礎は成った。魚の経営する旅館青巒荘は昭和六年豊泉に加筆資産氏の命名されたる所であって其の環境をよく表はして居る。魚の資産は唯に広河原開発に止らず箱根富鶴線県道開通を促進し国立公園となり大広河原発展の基をなすに至った。昭和二十三年広河原町が町制施行二十五周年を迎え祝賀を挙行するに当り魚を功労者として表彰したのも蓋し此の偉大なる功績を後世に銘彰する為めであった。

今般温河原観光を始め観光協会、旅館組合関係有志等相計り、魚の喜寿を祝福せんとして此の文を石に刻す次第である。　建立

湯河原町
湯河原観光協会
湯河原旅館組合
関係有志一同

大工道具・高級打刃物
建築金物・木工電動具
キゲタヤ商店
小林敬司
東京都江東区北砂町4～1153
電話（644）2562

政府登録国際観光旅館
奥湯河原温泉
仙境
野天風呂
青巒荘
電話　温河原（04606）代表 3111～6
東京案内所　電話（431）6247